

蠟梅 Now

暖冬とはいうものの、時折の冬らしい寒さも遠のき、春の息吹が身近に感じられるようになった3月も終盤に入って、当法人のシンボルツリー「蠟梅」は、すっかり落葉し、まるで枯れ木のようなのである。二つ、三つほど蓑虫の体をなした昨年からの秋枯れの果実が所在無げにぶら下がっているのは、なにやらおかしい。大地に返っても芽を吹くことも叶わず、もう少し現実世界を睥睨しようともいうのか……。一方では、生命の証しとばかり、若葉が芽を吹き、新たな営みを始めた。

自然界は春爛漫。蠟梅の開花に時を経ず、梅が咲き、紅白源平の枝垂れ桃、こぶし、紫モクレンそして桜の競演、まさに百花繚乱とでもいおうか、次々と覇を競っている。さらには、開花の時機を窺っていた気の早い躑躅が、もどかしげに花弁を開きかけてさえいる。

盛唐期の詩人王昌齡(698~755)の七言絶句に、帝の寵愛を失った妃が春の宵に悲しい心情を詠った「西宮春怨」がある。

西宮夜静百花香 (西宮の夜の静寂に潜む美しい花が悲しみを誘う)
欲捲珠簾春恨長 (簾を上げるが、春の夜は一人で過ごすには長すぎ)
斜抱雲和深見月 (あまりの寂しさに琵琶を抱きしみじみと月をみると)
朧朧樹色隱昭陽 (おぼろな樹の緑が今宵も帝が訪う昭陽殿を隠している)

春爛漫を謳歌する一方、悲しみに暮れる姿もあるのは世の習いか。



《発行者》

特定非営利活動法人 未来技術フォーラム神戸
事務局長 大森 信
〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町 4-2-7
TEL & FAX : 050-2014-2293 (IP Phone)
E-mail : info@npo-ffk.or.jp
URL : <http://www.npo-ffk.or.jp>